

令和 8 年度 第 1 回鹿児島市食品ロス削減推進委員会 会議概要

【日 時】

令和 8 年 8 月 2 6 日（水） 1 0 時 3 0 分～ 1 2 時 0 0 分

【場 所】

みなと大通り別館 6 階 ソーホー鹿児島

【出席委員】

井上委員（委員長）、肥田木委員（副委員長）、萩原委員、玉利委員、大賀委員、園田委員、迫委員、福島委員、平野委員、根建委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 環境局長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 委員長・副委員長選出
- 5 議事
 - (1) 概要説明
 - ①鹿児島市食品ロス削減推進委員会及び食品ロス削減推進計画について
 - (2) 報告事項
 - ①鹿児島市食品ロス削減推進計画に基づく令和 7 年度及び令和 8 年度実施事業について
 - ②鹿児島市食品ロス削減推進計画に係る目標の進捗状況について
 - ③鹿児島市食品ロス削減推進計画改訂版（素案）について
 - (3) その他
- 6 閉会

【会長、副会長選出について】

委員長 井上 佳朗 委員（鹿児島大学 名誉教授）

副委員長 肥田木 康正 委員（鹿児島県飲食業生活衛生同業組合）

【議事概要】

- ①鹿児島市食品ロス削減推進計画に基づく令和 7 年度及び令和 8 年度実施事業について

委 員：かごしまタベスケについて、一部の店舗だけが出品していて、利用しにくい。こちらの点についてどのように考えているか。

事務局：課題としては、店舗側のオペレーションの問題や店舗でアプリを利用する人がアプリに慣れていない点、営業時間内での対応となるため、仕事帰りに購入できないなど、商品を出品しても取引が成立しない点、出品をして

取引が成立すれば、店舗側も続けてくれるが、実績がないと店舗側も出品が続かない点などが課題と思っている。

委員：店舗側のアプリの操作が課題と挙がっていたので、動画とか簡単なものを作っていただいて、少しでも工夫していただければいいと感じた。

事務局：店舗のフォローアップについて、取り組みやすいように工夫して参りたい。

委員：子どもに情報提供する場も増やしていければ、食品ロス削減も進んでいくのではと思う。

②鹿児島市食品ロス削減推進計画に係る目標の進捗状況について

委員：事業系が目標を達成できていて、進捗率も高い理由を教えてほしい。

事務局：事業系食品ロスが大きく減少している理由については、製造方法や容器包装等を工夫し、賞味・消費期限を延長したり、仕入れ先や卸し先との間での取扱品目・量などの柔軟な対応、正確な需要量の把握などにより、大きく削減が進んでいったと考えている。

③鹿児島市食品ロス削減推進計画改訂版（素案）について

委員：かごしまタバスケの取引成立回数について、積極的に利用している事業者が少ないということと、事業者の方々も努力をされているのを聞いて、この目標は頑張っている（目標を高く設定している）と感じた。この数字の根拠があったら教えてほしい。

事務局：登録している店舗が 50 店舗近くあるが、実際、出品している店舗数をベースに、1 店舗あたり年間 400 回の取引成立回数を想定している。

委員：家庭系について、積極的な目標やアプローチを考えていれば教えてほしい。

事務局：家庭系について、日頃から食品ロスに関わらずごみの減量という観点から、食べきってください、使い切ってくださいという意識啓発は行っているが、今後、具体的な進んだ取組ができないか検討して参りたい。

委員：ホームページやInstagram等の SNS を使って積極的にしていただいているが、情報取りに行かないと見るできない状況だと思う。新聞、市の広報誌、テレビなどのメディアを使うことで、一般の全く興味のない方にも、少しでも届く方法だとは思いますが、現時点で検討されているか。

事務局：今後、様々な媒体を上手に使っていききたい。

委員：若い人は、ほとんど新聞やテレビを見ず、スマホで動画を見ている。その子供たちが見ているインフルエンサーの人たちを巻き込んで、その人たちから食品ロス削減について発信してもらう、コマーシャルしてもらうと効果的だった。